

日本最長の大名家・九州相良藩

平成31年3月3日
横浜歴史研究会 大瀬克博

鹿児島県と宮崎県に接する熊本県南部の人吉球磨地方は九州山塊に囲まれた盆地である。この地域を鎌倉時代から明治維新まで統治した相良氏は江戸幕府諸大名の中で島津氏と並ぶ最古の家系である。この地は文化庁が平成27年に創設した日本遺産の初年度に「相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本で最も豊かな隠れ里」として認定されている。



人吉城址

クマソ

人吉球磨地方の真ん中を日本三大急流の球磨川が走り、そこには山地から多くの支流が流れ込み扇状地を作っている。これが古代人の住みやすさとなりクマソの国になったと言われる。

クマソは3～4世紀頃に大和朝廷に服従しない部族の代表として、日本書紀そして古事記に書かれる。肥前風土記ではクマソを球磨噲喙(クマソオ)と称し、「クマ」は肥後国球磨郡地方を、「ソオ」は大隅国噲喙郡地方としている。また景行紀には天皇がソを平らげた後にクマの県に行かれたとあり、球磨地域を支配したのがクマそして薩摩大隅地域を支配したのがソとも考えられる。また、3世紀中頃に卑弥呼が対峙した狗奴国はクマソであり、後に仲哀天皇の大和朝廷と戦っていることから、クマソはかなり広い地域に威力を及ぼしていたという説がある。神功皇后がクマソを征伐した後にはクマの名前は記紀から消える。そして645年の「改新の詔」で国郡制が施行され人吉球磨は肥後国の一郡として「球磨郡」となり、この呼称は今に続いている。

相良氏の人吉下向

平安末期には「球磨御領」として平清盛の弟頼盛の支配下となり代官矢瀬主馬佑が統治した。鎌倉幕府が成立した翌建久4年(1193)に鎌倉御家人で遠州相良庄の相良頼景が球磨に下向する。これは罪を得ての追放処置とされている。その後、元久2年(1205)に承久の乱で北条義時に従った頼景の長子長頼が畠山重忠討伐の相模二俣川合戦に功を上げ、人吉庄地頭に任じられた。長頼はそれまで人吉庄を支配していた矢瀬主馬佑を滅ぼし人吉城初代当主となった。

鎌倉時代が終わった南北朝時代の建武2年(1335)には相良一族は二派に分かれて対立し戦闘に明け暮れた。その対立は嘉吉5年(1448)まで続き漸く統一がなった。

戦国時代となり相良氏は領土拡大をはかり近隣国への侵攻を始める。そして天文3年(1534)には水俣、八代、芦北を含む肥後国南半分を支配下において八代に新城を築き居城としたのである。この頃が相良氏の最盛期であったが長く続かず、天正9年(1581)の島津氏との水俣城攻防戦での敗北降伏を契機にその支配は終わった。

丸目蔵人佐

天文9年(1540)に剣豪・丸目蔵人佐がこの地に生れている。丸目は剣聖と言われた上泉伊勢守に師事し新陰流を修め四天王の一人となった。その後、故郷人吉に帰り相良藩士として軍勢を率い島津の兵と大口城で戦って敗れ、また京に戻って新陰流を修練した。伊勢守の新陰流は活人剣を身上とし東は柳生石舟斎、西は丸目蔵人佐に託し天下に広めた。丸目は九州柳川の立花宗茂などにも伝授している。柳生が徳川の中枢として新陰流の正統になると、新陰崩しの二刀流「タイ捨て」流を創始し九州全域に広めた。晩年は人吉城外に住んで農に励み寛永6年(1629)に89歳で亡くなった。



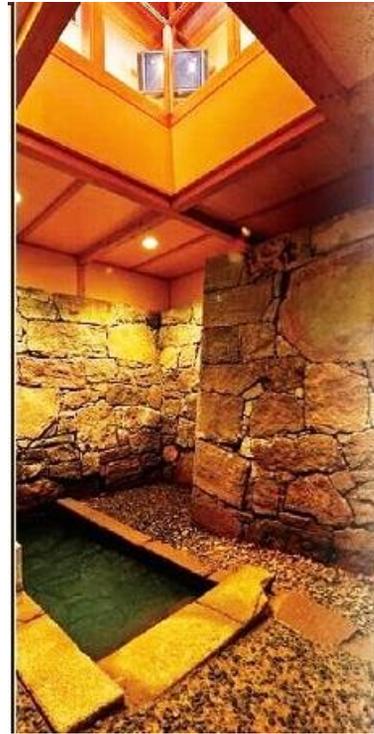
丸目蔵人佐

関ヶ原合戦と相良清兵衛

そして関ヶ原の合戦を迎える。家老相良清兵衛が井伊直政と交流があり、相良藩は当初徳川方への加担を意図するが、西国諸大名の大半が西軍方に属する現実を無視できず、伏見城攻略戦に参加した後大垣城の守備に回る。九州には西軍から東軍へ内応していた藩が多かった。相良藩は合戦で東軍が勝利すると姻戚関係にある日向延岡藩そして日向高鍋藩と謀って寝返り、大垣城を守る西軍の将5名を討って城を開いた。相良藩、延岡藩、高鍋藩はこの寝返りで所領を安堵された。これを主導したのが相良清兵衛である。清兵衛の姓は代々家老職の犬童であったが、朝鮮出兵で藩主長毎の補佐役として大きな功を上げ相良姓を拝領している。清兵衛は関ヶ原の功により家康お目見えを果たし藩主を凌ぐ実権を握るようになり相良家2万2千石(実高は6万石以上)のうち実に8千石を得た。娘は相良家嫡男と結婚させ、更に息子には島津家より嫁を取って姻戚関係をつくり、藩政を牛耳るようになった。その構図を崩したのが娘婿の21代藩主頼寛で清兵衛の専横悪行を幕府に訴える。幕府はこれを受理し江戸へ召喚した上で陸奥弘前藩へお預けの処分を下した。

御下の乱

清兵衛への措置を不満とした一族は城近くの屋敷に立て籠り藩への反意を示す。藩は討手を差し向け女子供を含む一族121人が犠牲となった。この事件は屋敷一帯の地名から「御下の乱」と呼ばれ、相良藩の長い歴史の中で最大のお家騒動であった。平成9年に人吉城歴史館の建設工事で清兵衛屋敷の跡地から6m四方の地下室遺構が発掘された。地下室中心部には湧き水を湛える横2m、縦1.5m、深さ2mの方形井戸があり、その底には日本刀一振りが沈められていた。全国的に類例のない特殊な石造りの地下遺構で、北東角と南西角には石階段の出入口がついている。この地下室が何のために作られたかは不明だが、護摩祈祷の沐浴或はキリスト教の洗礼など宗教的行為を行う施設ではとされている。洗礼説の根拠としては、1) 井戸石垣に切支丹絵模様のハート図形石と十文字跡がある、2) 地下室の建設に切支丹大名大友宗麟の豊後石工集団を呼んだとされる、3) 切支丹大名の小西行長と親交があったこと、が挙げられる。



地下室遺構

相良清兵衛の処分後である。清兵衛は徳川家への功績を多として従者6人と米300俵30人扶持を与えられ、88歳で亡くなるまでの15年間を弘前城近くの屋敷で過ごした。そして津軽米の大阪江戸送りや津軽築城などで功を表し、藩主津軽土佐守の信頼を得たとされ、藩主相当の戒名と弘前市中心部に「相良町」の町名を残し、これは津軽藩への貢献の証とされている。

江戸末期一明治維新一西南戦争

江戸時代末期の文久2年(1862)に人吉城下の大半と人吉城の一部が焼失する大火が起きた。相良藩は復旧のため肥後細川藩に借用を申し入れるが断られ、大阪商人そして薩摩藩からの借金で復旧を行った。この時に薩摩藩で借金申し入れを即座に受けたのが弱冠28歳の家老小松帯刀であった。相良藩はこのことを恩義に思い、後の西南戦争で多くの旧藩士が西郷軍に加わった理由とされる。

明治維新と西南戦争

明治4年の廃藩置県で人吉藩は人吉県となり明治9年に熊本県となる。そして翌10年に西南戦争が勃発、西郷は2月10日に人吉に入り、球磨川を舟で下って熊本へ進撃した。この時に旧人吉藩士の一部が人吉隊を結成して西郷軍に加勢し、1番隊・2番隊、さらに3番隊と組織して政府軍と戦った。北上した西郷軍は熊本城を落とすことができず、田原坂の戦いで敗退すると人吉に撤退した。4月28日であった。周囲が山に囲まれた人吉で反撃体制を整えるつもりであったが政府軍の進撃は早かった。人吉の戦いは市内全域を巻き込んで激しい戦闘が繰り広げられ、城下はほぼ全域が焼失した。この戦いは装備に勝る政府軍が西郷軍を圧倒し、6月1日に人吉は陥落し西郷軍は宮崎方面に撤退したのである。市内には今でも政府軍・西郷軍の各営舎となった建物が残り、一部には当時の弾痕が残っている。

明治維新後は様々な面で急速な近代化が進み、人吉にも中等学校や小学校が設立され、学校教育の普及が進められた。江戸時代以来、人吉球磨は林業が盛んであったが、その輸送手段も近代化が進み、明治41年(1908)6月に八代一人吉間、翌42年11月には人吉一吉松間に鹿児島本線(現在のJR肥薩線)が開通した。この鹿児島本線の路線選定と開通に当たっては、日清・日露戦争前後の富国強兵・軍備拡張策に伴う軍部による鉄道延長の要請が大きく影響しているといわれている。



球磨川第一橋梁 明治41年築

引用及び参考文献

- ・街道をゆく 司馬遼太郎 朝日新聞社
- ・肥後相良一族 池田こういち著 新人物往来社
- ・人吉球磨の歴史 渋谷敦監修 郷土出版社
- ・波瀾万丈! 相良清兵衛伝 人吉市教育委員会編集発行
- ・肥後学講座Ⅲ 鶴嶋俊彦著 熊本日日新聞社
- ・驚愕の九州相良隠れキリシタン 原田正史著 人吉中央出版社
- ・古事記及び日本書紀の研究 津田左右吉 毎日ワーズ新書
- ・現代語古事記 竹田恒泰 学研
- ・地図で読む「古事記」「日本書紀」 武光誠 PHP文庫

人吉球磨の歴史

西暦	和暦	事項
前 3 万～ 前 1.5 万年	先土器時代	64ヶ所の遺跡 多くの石器
前 1,5 万～ 前 1 千年	縄文時代	球磨川支流 V 字谷に多くの 縄文遺跡 大量の石器・縄文土器、竪穴式住居跡など
前 200～200 年	弥生時代	青銅器、弥生免田式土器
300～500	古墳時代	地下式板積石室墓、横穴住居、装飾古墳など 400 年頃より前方後円墳出現
645	大化 2 年	改新の詔 肥後国 球磨郡 となる
806	大同元年	青井阿蘇神社（国宝）創建
1177～1184	治承元年～寿永 3	藤原季高入郡
1193	建久 4 年	相良頼景下向
1205	元久 2 年	相良長頼 人吉地頭職
1274、1281	文永 11、弘安 4	文永の役、弘安の役に出征
1534～1581	天文 3～天正 9	水俣、八代、天草の 肥後国南半分を支配
1581	天正 9 年	水俣で島津軍と戦闘、敗北
1592	文禄元年	文禄の役に出陣
1596	慶長元年	慶長の役に出陣
1600	慶長 5 年	関ヶ原合戦
1615	元和元年	大阪夏の陣に出陣
1640	寛永 17 年	家老相良清兵衛の江戸召喚 御下の乱
1862	文久 2 年	文久の大火（寅助火事）で城下大半焼失
1868	明治元年	戊辰戦争へ出陣
1871	明治 5 年	廃藩置県で人吉県
1876	明治 9 年	熊本県 に編入
1877	明治 10 年	西南戦争 人吉の戦いで城下焼失
1908	明治 41 年	鹿児島本線（現在の肥薩線）・八代—人吉間開通
1909	明治 42 年	鹿児島本線・人吉—吉松間開通